

令和2年度 第2回名桜大学 FD 研修会：総評

副学長（教育）林 優子（名桜大学 FD 委員会委員）

令和2年度第2回名桜大学 FD 研修会は、令和2年5月29日（金）に学生会館（SAKURAUM）3F・大講義室 A・B 及び Microsoft Teams（オンライン）において開催された。本研修会のテーマは、「ICT を用いた遠隔授業の振り返り、遠隔授業の実施方法の改善策について」であった。

令和2年4月30日（木）付発出の「緊急事態宣言の延長に伴う本学の基本方針」において、授業は令和2年度5月7日（木）から5月29日（金）までは、ICT 等を活用した遠隔授業のみとすることとなった。そして、今後も遠隔授業と対面授業のハイブリット形式による授業運営の継続が想定されることから、今回の研修会は、ICT を用いた遠隔講義の振り返りとして位置づけ、本学教員4名による事例紹介を行っていただいた。

事例紹介の目的としては、様々な遠隔講義の運営方法を教員へ情報共有することである。国際学群国際学類の金城亮教授による Microsoft Teams, Universal Passport, Google Forms を用いた遠隔講義事例と人間健康学部看護学科木村安貴准教授による Google Class, Microsoft Teams, Google Forms を用いた遠隔講義事例を、FD 研修会の事前学習（オンライン学習）として位置づけ、2名教員の取組を動画に録画していただき、FD 委員会において全学的に情報共有を行った。研修会の当日には、人間健康学部スポーツ健康学科玉城将准教授による Microsoft Teams を用いた遠隔講義事例とリベラルアーツ機構山城智史上級准教授による Google Class, Meet, Forms を用いた遠隔講義事例を紹介していただいた。各教員による事例紹介は、システムの機能紹介に始まり、どのように授業を運営しているか、克服した課題、今後の課題について端的に述べられた。また、すべての発表が事前に録画していただいた内容であったため研修会進行・オンライン参加者対応において大きく貢献することができた。

事例紹介の次に、遠隔授業の実施方法の改善策①として、令和2年5月20日（水）～5月25日（月）の期間で全教員・学生を対象として実施した遠隔授業実施・受講に関する実態調査の報告を国際学群国際学類卯田卓矢准教授（名桜大学 FD 委員会委員）が発表した。教員の遠隔授業実施に係る状況の確認と、学生の遠隔授業受講に係る現状把握を目的とした。本件に関しては、FD 委員会において引き続き実態調査を再実施し、さらなる基礎資料を得ることで今回の調査報告と比較した結果を今年度中に全学的に報告したい。

続いて、遠隔授業の実施方法の改善策②として、今後の授業のあり方について小職が発表を行った。今般の事情等を鑑み、今後も遠隔授業の必要性が多いにあることから、令和2年度前学期6月以降（後学期も含める）の授業においても対面授業のみの実施ではなく、遠隔授業とのハイブリッド形式の授業形態を実施するよう依頼した。また、学生の受講においては、原則として教室内への出席を必須とせず、弾力的に対応することも併せて依頼した。そして、シラバスによる授業運営方法の明記・学生への周知、出欠管理における配慮についても説明を行った。

最後に、砂川学長による挨拶で本研修会を閉会した。

本研修会は、事例紹介や実態調査の報告、今後の授業のあり方についての発表であったことから、参加教員にとっても有益であったと考える。後学期においても遠隔授業導入に係る負担の軽減となることも期待したい。研修会運営に係り、発表動画・資料等を準備していただいた教職員にも併せて感謝したい。